北翔大学生涯学習システム学部研究紀要　第８号　　平成20年３月
Bulletin of Hokusho University　　March, 2008
School of Lifelong Learning Support Systems No.8

「えぽあ新春コンサート＆SATTAMA」公演実施に関する報告書
――大学と地域文化の連携をめざす試みとして――

Report on the Performance of "EPOA New Year Concert & SATTMA"
―― As an Attempt to Cooperate the University and the Regional Culture ――

鈴　木　しおり　　永　留　淳　也
Shiori SUZUKI　　Junya NAGATOME

抄　録

江別市（人口約12万人）のえぽあホールは，大麻公民館と併設しており市民文化の拠点となっている。北方圏学術情報センター音楽プロジェクトでは，当ホールから徒歩15分の距離にある北翔大学の生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コースと市民の音楽文化を連携させる試みを「えぽあ新春コンサート＆SATTAMA」で企画し実施した。その内容を，研究の目的と構成，実施計画の概要，アンケート集計や授業での感想文で報告する。また，それらを通して地域音楽振興を考察したい。

Ⅰ　はじめに

北海道にとって１月下旬は"大寒の入り"で厳冬の季節であるが，やはり新春のイメージは本州の人々と同様に道民の心にも息づいている。雪の季節とはいえ，２月にむけて少しずつ日が長くなり春を心待ちにしている。そのような時期に，若い気力・体力あふれる若者の演奏を聴きたくなり，日ごろ出不精な人々も会場へ出むいてみたくなることを期待して，チラシ・ポスターの原稿を考える。選曲やデザインなど工夫し，5000枚を刷り上げ，地道な広報活動に努める。若い新鮮な魅力に満ちた演奏のほかに，熟練のゲスト音楽家による演奏で音楽会の内容は多彩，かつ豊かで豪華なものになり，どの年齢層に対しても聴き応えのある音楽企画になる。

人々の生涯音楽学習における「表現・鑑賞」の活動において，短期間で大きな成果を期待できる学習形態は人的交流の活性化の中にあると考えている。なぜなら，音楽は芸術の中でも，最も非言語コミュニケーションとしての役割が大きく，特にソロよりアンサンブル（合唱，合奏等）は音楽の本来の姿であり，それは１人では成り立たない。つまり，音楽の重要な役割のひとつに"人の輪をつくる"ことが挙げられよう。

このような人的交流を目的とした音楽振興において，財団法人・音楽文化創造では，「生涯学習音楽指導員制度」や「音楽検定制度」を設け，2004年に「全国ネットワーク」を設立するなどして，リーダーとして指導的立場に立つ人間をどう養成するかに努めている。しかし，音楽プ

ロジェクトでは，この問題を違った視点から捉え，地域における音楽振興の鍵を，音楽系大学と地域住民との交流で相互に学習しあう環境づくりにもとめている。本研究は，そのシステムとしての過程を研究し，地域の生涯学習（音楽文化）の活性化につなげることが目的である。

Ⅱ．研究の目的と構成

地域（江別市，札幌市厚別区）と大学との連携による“音楽文化の振興”を目指し，その環境づくり（主に，人的ネットワーク）を試みる。そのための“きっかけ”として，今回の公演を位置づけた。研究の目的は，以下の３点である。

1）大学から地域への音楽情報の発信

ⅰ．学生による学習成果の発表（演奏，展示）

ⅱ．教員による研究成果（演奏）の発表

2）音楽イヴェントによる地域活性

ⅰ．ピアノソロ，連弾，２台ピアノや電子ピアノなど，ピアノ音楽をさまざまな演奏スタイルで披露し，ピアノアンサンブルの多様性を披露する

ⅱ．３年生は親しみのあるポピュラー曲，４年生は主にクラシック曲を披露

ⅲ．新春コンサートに相応しく，多彩なゲストを迎える

3）コンサート形式による教育的効果

ⅰ．江別市えぽあホールの音楽的な響きを体験し，演奏における響きのコントロールを学ぶ

ⅱ．指導教員の生演奏を聴く機会を得る

ⅲ．コンサートの企画・運営における実践の場とする

上記３点の研究目的は，具体的には下記の内容で実施した。尚，案内状とチラシ郵送による，生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コースの道内の小・中・高校向け広報活動もあわせて実施した（約250校）。

①地域音楽振興における大学の役割の模索

②地域音楽振興における産官学連携の構築

③地域の大学の学生（音楽）の紹介と育成

④地域の大学の指導者・支援者（音楽）の紹介

⑤地域住民の音楽学習の発表

⑥地域における音楽ネットワークの構築（産官学と地域住民）

今回の公演では，⑤⑥を除くすべてを実施した。

次に，主な鑑賞者は下記の内容になる。

①鑑賞者：地域住民（主に江別市・札幌市厚別区）

②鑑賞者：道内の小・中・高等学校教諭（校長先生，音楽教諭，音楽クラブ顧問）

③鑑賞者：教科「卒業研究」履修生の父母

④鑑賞者：芸術メディア学科１，２年生（音楽コース）

⑤鑑賞者：全学共通科目「芸術論」履修生（全学１，２，３，４年生）

上記の５項目の観覧者について，以下に具体的に述べる。

①事前に北海道新聞の取材による記事（札幌圏）掲載と，「えべつ楽友協会」主催の「札幌交響楽団ニューイヤーコンサート（江別市民会館）」のチラシ折込を実施した。江別市広報への掲載が間に合わなかったことなど，地域住民に対して十分な広報活動をできなかったことが今後の課題である。

②入場無料であることから，案内状を郵送した。特に近隣の高校200校へは，学生募集の広報としても役立つと考え，校長先生の他に音楽教諭と音楽クラブ顧問へ案内をこまめに行った。コンサートの内容から，他の音楽系大学にはみられない本学ならではの教育目標を示すことが目的であった。

③迎える２月の卒業演奏会の日程の都合が合わない父母や，また，卒業演奏会はオーデション選考であるため選考にもれた学生の父母への発表の場として位置づけた。

④と⑤芸術メディア学科音楽コースの１年生と２年生は，それぞれの科目「ピアノ基礎Ⅱ」「ピアノ表現Ⅱ」と，更に全学共通科目「芸術論」の鑑賞学習に位置づけ，感想文の提出を義務付けた。学生にとっては，身近かな先輩や指導教員，また多彩なゲストが演奏するこのコンサートは，生演奏に触れる良い学習機会であると考える。

また，演奏者は下記の内容になる。

①演奏者：生涯学習システム学部共通科目「専門演習Ⅱ」履修者（３年ピアノゼミ）８名

②演奏者：生涯学習システム学部共通科目「専門演習Ⅱ」履修者（３年サクソフォンゼミ）４名

③演奏者：生涯学習システム学部共通科目「卒業研究」の履修者（４年ピアノゼミ）８名

④演奏者：「専門演習Ⅱ」「卒業研究」の指導教員（ピアノ，ジャズピアノ，サクソフォン）

⑤演奏者：ゲスト（チェロ，サクソフォン４重奏団，ジャズギター，ジャズサクソフォン）

①は，ピアノゼミ３年生による学習発表，②はサクソフォンゼミ３年生による展示とミニコンサート（ロビー・楽器展示とポスター発表）③は，ピアノゼミ４年生による卒業研究の発表，④と⑤は教員とゲストによる演奏で，JAZZ ピアノトリオの授業課題による模範演奏等とサクソフォン４重奏団によるパフォーマンス，チェロとピアノによる室内樂の演奏であった。

また，展示は下記の内容になる。

①展示：SATTAMA～歴史と音楽の紹介～

②展示：DVD 作品発表～上映「ざわめき」“Noise”～

①は，本報告書に215～217頁に後述する。②は，電子音楽と映像の合作で，学生が独自に制作したビデオ作品のロビー上映であった。プログラムにも入っておりステージでも披露したが，公演中，常時ロビーで上映された。

尚，鑑賞者の④と⑤，演奏者の①～③に関しては，公演が週日に実施され，通常授業が開講

される中，コンサートは夕刻から夜にかけての実施だが，会場リハーサルが午後１時から開始のため，演奏する学生は他の授業を欠席することになり，大学での諸先生にはこれら学生の欠席に関して，特段のご配慮を賜ったことにこの場を借りてお礼を申し上げたい。

Ⅲ．実施計画の概要

1．事業の名称

『芸術メディア学科音楽コースピアノゼミと北方圏学術情報センター音楽プロジェクトによる～えぽあ新春コンサート＆SATTAMA～』

2．事業実施の趣旨

地域音楽振興を目的とした音楽企画

同時ロビー開催：「サクソフォンアンサンブルユニット“Sattama”によるミニコンサート（24日17：40～18：00，25日16：25～16：45）＆展示」「DVD 上映：卒業作品発表（音楽，映像によるビデオ作品）『ざわめき』“Noise”（田村圭佑作）発表」

3．事業の実施地域（実施市町村名）

北海道江別市

4．主催名

浅井学園大学生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コース・ピアノゼミ

北方圏学術フロンティア研究・芸術（音楽）プロジェクト

5．主催責任者名

鈴木しおり（浅井学園大学生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コース教授，北方圏学術フロンティア研究・芸術（音楽）プロジェクト研究代表）

6．後　援：江別市教育委員会

7．協　賛：エルム楽器，河合楽器製作所北海道支社，キクヤ楽器，砂越ピアノサービス，北海楽器，ヤマハミュージック北海道札幌店（五十音順）

8．協　力：浅井学園大学生涯学習センター

9．事業の実施期間

2007年（平成19年）

1月24日（水）18：15～19：45

1月25日（木）17：00～18：00（1部），18：15～19：30（2部）

10．開催施設名（会場名）

江別市えぽあホール

11．事業の内容

①北方圏学術情報センター音楽プロジェクトによる大学開放と地域音楽振興に関する調査

②浅井学園大学生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コース3，4年ピアノゼミ生，サクソフォンゼミ生による学習発表（演奏，展示，上映）。演奏内容としてピアノソロ，連

弾，2台ピアノ，2台8手，エレクトーン，ジャズ，チェロ室内楽，サクソフォン4重奏

③浅井学園大学生涯学習システム学部芸術メディア学科音楽コース教員による研究（演奏芸術）発表，ゲスト奏者（サクソフォン，チェロ，ギター）による演奏（共演）

12. 趣旨の内容

地域音楽振興の鍵は，音楽系大学と地域住民との交流にあると位置付け，そのネットワークつくりを本公演をきっかけに行う。

13. 収支予算書

別紙添付（省略）

14. 事業を実施するための組織及び機構図

主催団体・主催責任者・研究プロジェクト・協賛企業団体・協力団体・演奏者・スタッフ・ゲスト・鑑賞者

上記の内容で実施し，チラシ5000枚とポスター，及び新聞報道にて広報活動を行った結果，聴衆として延べ人数300名ほどの参加があった。

写真1　「えぽあ新春コンサート＆SATTAMA」のチラシ

写真2　2台8手による交響詩「フィンランディア」（川崎，鵜沼，栄村，吉田）

Ⅳ．プログラム

以下に，当日のプログラムを**写真3**として紹介する。曲の解説は著者（鈴木）が行った。ステージ転換の時間を利用しての舞台袖での説明だったが，プログラムに曲目解説がないため，聴取・鑑賞の手引きになったことと思う。尚，上記のチラシデザインはピアノゼミ生の吉田亨さんによるもので，彼は演奏だけではなく「進行表」作成をはじめ大きく運営にかかわり助けとなった。

ご挨拶

浅井学園大学生涯学習システム学部芸術メディア学科教授
北方圏学術フロンティア音楽グループ研究代表
鈴木 しおり

本日は、お忙しい中を「えぽあ・新春コンサート」においでいただき、誠にありがとうございます。

芸術メディア学科ピアノゼミでは、江別市えぽあホールの素晴らしい響きの中で、このように会場の皆様の前で学習成果を披露させていただきますことに一同、心より感謝申し上げます。

この日のために、慎重にプログラムを練り上げ、練習してまいりました。ピアノソロ、連弾、2台ピアノやエレクトーン・ステージアなど、ピアノ音楽をさまざまな演奏スタイルでお楽しみいただけましたら幸いでございます。

また、新春コンサートに相応しく、多彩なゲストをお迎えいたしました。札響からは、平成16年度札幌市民芸術祭大賞を受賞されたチェリスト・文屋治実氏、また、新進気鋭のサクソフォン合奏団“高山流水”、ジャズのステージでは、ギター・飛澤良一氏とアルトサックス・蛇池雅人氏をお迎えいたします。

それでは、同時ロビー開催のサクソフォンアンサンブルユニットによる「Sattama・展示＆ミニコンサート」と「DVD作品上映 田村圭佑作“ざわめき”」ともに、「えぽあ・新春コンサート」を、最後までごゆっくりお聴きください。

Program 1月24日 演奏プログラム

1 ピアノ 連弾	ハンガリー舞曲集より 第1番	ブラームス 作曲	Primo 川崎ハンナ Second 佐藤亜裕美
	ハンガリー舞曲集より 第2番	ブラームス 作曲	Pri 鵜沼 由美 Sec 川崎ハンナ
	ハンガリー舞曲集より 第5番	ブラームス 作曲	Pri 鵜沼 由美 Sec 川崎ハンナ
	「冬のソナタ」より“はじめから今まで”	ユ・ヘジュン 作曲 オ・ソクジョン 編曲	Pri 山口 弥希 Sec 福光 杏奈
2 ピアノ連弾＆ステージア	「冬のソナタ」より“My Memory”	Ryu 作曲	Pri 山口 弥希 Sec 福光 杏奈 ステージア 清野 由奈
3 ピアノ連弾	戦場のメリークリスマス	坂本龍一 作曲	Pri 鳥居 大悟 Sec 川崎ハンナ
4 エレクトーン・ステージア ソロ	「エグモント」序曲 作品84	ベートーベン 作曲	ステージア 白岩 優拓

～～～ 休　憩 ～～～

5 ピアノ ソロ	パガニーニによる超絶技巧練習曲集より“ラ・カンパネッラ（鐘）”	F.リスト 作曲	pf 栄村朱紗弥
	ピアノ・ソナタ 作品番号40 第2番 第1楽章	クレメンティ 作曲	pf 吉田 亨
	ワルツ 遺作 ホ短調	F.ショパン 作曲	pf 花和 真苗
	3つの夜想曲より“第3番 愛の夢”	F.リスト 作曲	
6 ゲスト演奏 ジャズ・トリオ	Samba de Mulher ほか	ジョイス 作曲	pf 南山 雅樹（本学非常勤講師） gt 飛澤 良一 a.sax 蛇池 雅人

同時ロビー開催（24・25日）

●サクソフォン・アンサンブルユニットによる「Sattama ～展示＆ミニコンサート～」
s.sax 大川 千里　a.sax 岡部 裕司　t.sax 妹尾 佳奈　b.sax 森 将幸

● DVD作品発表：上映「ざわめき」“Noise”　自作　田村 圭佑

■ 芸術メディア科・ピアノゼミの学生達 ■

阿蘇 裕文、鵜沼 由美、川崎 ハンナ、佐藤 亜裕美
清野 由奈、鳥居 大悟、福光 杏奈、山口 弥希　（3年生8名）

栄村 朱紗弥、中川 龍一郎、中條 希美、菅原 一人、
田村 圭佑（欠席）、花和 真苗、山下 翔平、吉田 亨　（4年生8名）

1月25日 演奏プログラム

第1部

1	2台ピアノ	ラルゲットとアレグロ …… モーツアルト 作曲	Primo	栄村朱紗弥
			Second	吉田　亨
2	ピアノ 2台8手	夏の思い出 …… 中田喜直 作曲	PIANO I pri	川崎ハンナ
			sec	阿蘇　裕文
			PIANO II pri	山口　弥希
			sec	福光　杏奈
3	作品発表	"RW" ……		山下　翔平
		作品番号 第7番、第10番 ……		菅原　一人
4	エレクトーン・ステージア &2台ピアノ			
		SEPTEMBER …… モーリス・ホワイト 作曲	PIANO I	阿蘇　裕文
			PIANO II	清野　由奈
			ステージア	中川龍一郎
5	エレクトーン・ステージア ソロ			
		トッカータとフーガ …… J.S. バッハ 作曲	ステージア	中川龍一郎
6	ピアノ ソロ	前奏曲 嬰ハ短調 …… S. ラフマニノフ 作曲	pf	鳥居　大悟
		水の戯れ …… M. ラヴェル 作曲	pf	中條　希美
7	2台ピアノ	My Heart Will Go On …… J. ホーナー 作曲	PIANO I	山口　弥希
		～タイタニック・愛のテーマ～	PIANO II	佐藤亜裕美
		花のワルツ …… F. ショパン 作曲	PIANO I	鵜沼　由美
			PIANO II	川崎ハンナ

第2部

1	DVD 作品発表	「ざわめき」"Noise" ……		田村　圭佑
2	ピアノ 2台8手	交響詩「フィンランディア」…… シベリウス 作曲	PIANO I pri	栄村朱紗弥
			sec	吉田　亨
			PIANO II pri	鵜沼　由美
			sec	川崎ハンナ
3	ゲスト演奏　サクソフォーン 4重奏団「高山流水」			
		ラグタイム組曲より I パンナグ・ラグ …… T. ターピン 作曲	s.sax	永留　淳也
		A. フラッケンポール 編曲	a.sax	石澤　恵美
			t.sax	上野　温子
			b.sax	池尻ゴン太
			pf	鈴木しおり
		カルメン組曲 …… G. ビゼー 作曲		
		谷津 裕子 編曲		
		三文オペラより …… K. ヴァイル 作曲		
		哀愁のミュゼット …… 桑山 哲也 作曲		
		Violentango …… A. ピアソラ 作曲		
		Escualo …… A. ピアソラ 作曲		
4	ゲスト演奏	チェロとピアノ アンサンブル　白鳥 …… サン・サーンス 作曲	vlc	文屋　治実
		アルペジョーネ・ソナタ …… シューベルト 作曲	pf	鈴木しおり

えぽあ・新春コンサート演奏者プロフィール Profile

■ ゲスト演奏者

文屋 治実（チェロ）

旭川市出身。東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。フィンランド政府給費留学生として、シベリウス・アカデミーに入学。毎年行なっているリサイタルは「音楽の友」誌上で"特筆に値するコンサート"として紹介され、北海道新聞の"感動・魅力・この一作"にも選ばれた。現在札幌交響楽団。HIMES 理事。アンサンブル・エルヴェ顧問。平成 16 年度札幌市民芸術奨大賞受賞。

蛇池 雅人（アルト・サックス）

苫小牧市出身。高校時代に吹奏楽部でサックスと出会い、ライブハウス等で演奏活動を開始。自己のバンドを初め数多くのセッションに精力的に参加する傍ら、クリニック、レッスン等の講師活動にも力を注ぐ。2004 年秋、2006 年冬には単身渡米。N.Y 老師ジャズクラブにて 数多くのセッションに参加し、多くのジャズプレイヤーと競演。2006 年 10 月初のアルバム「SLOW LIFE」発表。

飛澤 良一（ギター）

'68 生札幌市出身 18 歳で上京。宮の上貴昭氏に師事、ジャズを学ぶ。その後、ボサノバに影響を受け、ブラジル音楽を中心にアメリカはニューヨーク、サンタモニカ、イタリアはローマ、フィレンツェ、ミラノでストリートソロギタリストとして活動。その後、南半球へ渡り、サックスプレーヤー Cris White、ベーシスト、Mickel Boldry らと共演、ボーカリスト、Clarence と TV 出演も果たす。帰国後、札幌のライブハウスを中心に活動。北海道で数少ないボサノバギタリストとして活躍中。

高山流水

石澤 惠美（アルト・サクソフォン）

2005 年浅井学園大学芸術メディア学科卒。サクソフォンを永留淳也氏に師事。2002 年フランスのメッスで開催された夏期音楽講習会に参加しファブリス・モレティ氏に学ぶ。ヤマハ PMS、ミツノ音楽教室講師。

上野 温子（テナー・サクソフォン）

2005 年浅井学園大学芸術メディア学科卒。サクソフォンを永留淳也氏に師事。現在，北海道余市高等学校、手稲養護学校非常勤講師。カワイ音楽教室、三響楽器音楽教室サクソフォン講師。

池尻 健（バリトン・サクソフォン）

北海道芸術専門学校器楽科、洗足学園魚津短期大学音楽科卒。サクソフォンを池上政人、岩本伸一、奈良岡朋憲、各氏に師事。現在、札幌を中心に演奏活動を行っている。井関楽器ミュージックスクール講師、ライズ音楽院講師。

■ 芸術メディア学科音楽コース教員

永留 淳也（ソプラノ・サクソフォン）

福岡県出身。1992 年国立音楽大学サックス科卒。フランスのアミアン国立地方音楽院サックス科修了。1997 年より北海道で演奏活動を行う。現在、浅井学園大学芸術メディア学科、札幌大谷大学の非常勤講師として後進の育成にも力を注ぐ。サクソフォンを故・大室勇一、石渡悠史、須川展也、セルジュ・ベルトーキの各氏に師事。学術フロンティア音楽プロジェクト共同研究員。

南山 雅樹（ピアノ）

66 生札幌市出身。声楽を学んでいた母の影響で自然と音楽に親しみ、独学でピアノ、キーボードを弾くようになる。中高生時代は、ロックを手がけたが、20 代からは、ジャズを中心に活動。Day By Day や Slow Boat、Jericho など、札幌を代表する ジャズ・スポットのレギュラー・メンバーとして活動。また、元 ZONE の Takayo の CD "Takayo" への参加およびサポート・メンバーなど、精力的に活動している。浅井学園大学芸術メディア学科非常勤講師。

鈴木 しおり（ピアノ）

旭川市出身。武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒、1995 年、教育大学大学院音楽教育専修修了。田島ツタ、三浦洋一、ヤン・ホラーク、M・クリストの各氏に師事。1981 年、旭川市新人奨励賞受賞。87 年、ウィーン国立音大教授による夏期ウィーンピアノセミナー修了。88 年リサイタル開催。「第 7 回音楽教育振興賞（毎日新聞社・音楽教育振興財団共催）」受賞。浅井学園大学芸術メディア学科教授。学術フロンティア音楽プロジェクト研究代表

写真 4　ピアノ独奏「ラ・カンパネラ」（栄村朱紗弥）

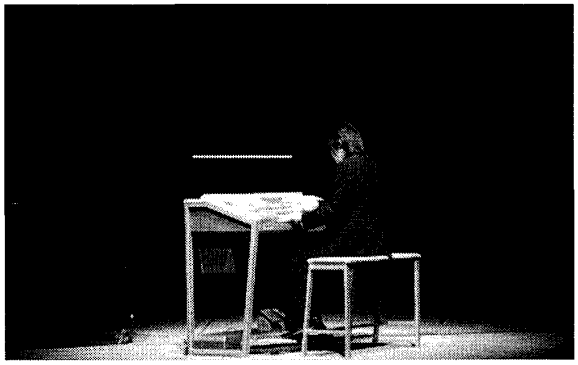

写真 5　STAGEA 独奏「トッカータとフーガ」（中川龍一郎）

写真 6　文屋治実（札響）氏のチェロ独奏「アルペジョーネ・ソナタ他」

V．サクソフォン・アンサンブルユニット“Sattama（サッタマ）”
ーサクソフォン・ゼミー

ロビーにおける展示と演奏のパフォーマンスで，今回の公演を大いに盛り上げたサクソフォン・アンサンブルユニット“Sattama（サッタマ）”は，既に2007年１月13日，14日に，北方圏学術情報センター・ポルト（札幌中央区）において同企画を成功させており，以下に“Sattama”の実践概要を簡単に紹介する。

１）発足の目的

芸術メディア学科音楽コースでは，１，２年次に，それぞれ「基礎Ⅰ，Ⅱ（１年次）」と「表現Ⅰ，Ⅱ（２年次）」という形で，ピアノ・声楽・管弦打楽器・電子音楽の基礎技術の習熟を目指し，３年次からは「専門演習Ⅰ・Ⅱ」という科目名でゼミ形式により，より専門的色合いを濃くしながら，同時に演奏以外の観点からも，選択した科目をより深く学べるところが，一般的な音楽大学や芸術系の旧国公立系大学によく見られる，４年間を通して，そのほとんどを専門実技のレッスンに力を注ぐという教育形態とは一線を画しており，そこが北翔大学芸術メディア学科音楽コースの科目履修の大きな特徴になっている。

今回，サクソフォンゼミ生の全体のレベルが粒ぞろいであったということから，演奏面もさることながら，その背面・側面に流れているマネージメント的な部分も含めて，人前において演奏をするという事をとおして，パフォーマンスを披露するという事の本質は何なのかということを直接の経験から学び，卒業後，それぞれの人生の中でそれを活かせるゼミというものを考えた時，研究活動と演奏会の融合というゼミ形式授業の本来の形である広い視野からの総合的な学習を行う形態に結実した。

北翔大学の学生の場合もそうであるが，音楽を専攻しても卒業後，100％の学生が音楽の世界に身を投じるわけではなく，望んでも出来ないという場合も多々ある。その場合，そのまま社会にでると，一般社会では当たり前となっている常識的なことを全く学ばずに社会に出て，苦労をする傾向があるのを目の当たりにしてきた。その面から，Sattamaを開催するテーマとしては大きく見て３つ挙げられる。

①好きな音楽を通して催し物の企画，運営を行なう体験をする

共同作業や仕事の手順，そしてそれを円滑に行う為の人間関係を上手く処理する重要さなどを認識し，経験する。

②無から有を作り出すことで，自らが考えそれを実行する自立の精神を養う

催し物を企画するということは，メンバー全員の意見や思いを調整しながら，前述の細々とした人間関係を経て「何も無い」ところから，「形ある物」に一つの命を吹き込んで行く，つまり，一見華やかであるが，その実，地味で根気のいる体験である。

③物事を並行して両立させることを学ぶ

音楽コースの学生の本文である音楽技術を錬磨しながら，同時にSattamaという企

画を成功させること。彼らなりに拙い足取りではあったものの，少しずつ企画会議を重ね，Sattama 開催を現実の物としていったことには，学生たちの大きな可能性を感じた。

2）名称の由来とコンセプト

一言でいうと，“サクソフォニストの玉子”という意味。それを良く解釈し，この先いろいろな可能性を持ち，今は小さな雛だけど，いずれ大きな鳥のように大空に羽ばたく学生集団という意味を持たせた。コンセプトは，発足でも述べたが，「展示，演奏とその運営」である。

3）北方圏学術情報センター・ポルトでの実施

一般的に音楽専攻生は，自分たちのレッスンのことは一生懸命やるが，例えば，「専攻楽器の歴史」や「音楽史的な中での位置づけ」，「今後の展望」などにおいては。全くと言って興味が無い。やはり，その楽器を専攻している者として，それは不都合である。まず，自分たちのやっている楽器そのものにしっかりと光を当て，自分たちがやっていることの偉大さをしっかり理解することが大事である。その上で，全く知らない方々にも少しは興味をもって頂こうと，サクソフォーンの歴史や仕組みなどを展示発表するに至る。しかし，それだけでは音楽専攻生としては味気ないし，見にくる方々にも固い印象を与えてしまいかねないので，そこに本来の持ち味である音楽会も組み込み，知的好奇心を十分に刺激するちょっとアカデミックな演奏会というコンセプトで実施し，大いに意味のある企画になった。

①日時

日時：2007年1月13日（土），14日（日）

【演奏発表】11：30，14：00，16：00，【展示】11時～17時

【体験コーナー】12：30，15：00～，14：50～

②演奏プログラム

1回目：オブラディ・オブラダ／ジョン・レノン，アイネ・クライネ・ナハトムジーク／モーツァルト，楽興の時／シューベルト，トトロメドレー／久石　譲

2回目：オープンマインド／矢野沙織，ジュピター／ホルスト，煙が目にしみる／カーン，アルペジョーネ・ソナタ／シューベルト

3回目：ディズニーメドレー／内山氏編曲，タンゴの歴史／ピアソラ，パイレーツ・オブ・カリビアンのテーマ／バデルト，ルパン3世のテーマ／大野雄二

③体験コーナー

サクソフォーンに直接触ってみようという，「体験コーナー」と「曲名当てクイズ」を設け，普段は何となく敷居が高く感じられる楽器に親しんでもらい，さらに曲名当てクイズを通してサクソフォーンの存在を身近に感じてもらうねらいで行った。

④展示部門

展示の方ではやりたいことが多すぎて，学生それぞれの思惑が犇めき合い，なかなか決

定できなかったが，最終的には以下の５項目となった。

ⅰ．サクソフォーンの歴史，ⅱ．創作者アドルフ・サックス氏について，ⅲ．いろいろなサクソフォーンの展示（ソプラノ，アルト，テノール，バリトン，他），ⅳ．サクソフォーンという楽器の仕組み，ⅴ．クラシックサクソフォーン奏者，ジャズサクソフォーン奏者の巨匠たち，これらの５項目を約90×180センチの模造紙に，学生たちがそれぞれ役割を分担して調べた内容を手書きで丹念に書写し，20枚近くをポルトのギャラリーに展示した。

Ⅵ．アンケート調査と集計結果

公演の24日と25日の両日は，会場でのアンケート調査を実施した。整理券等を発行しないため，正確な入場者数が把握できないが，24日は48名の回答，25日は27名の回答が得られた。25日は回答依頼のアナウンスがなかったことや，特に学生は，既に24日で回答している場合が多かったことが25日の回答が少ない理由に挙げられると予想する。今回は数の多い24日のアンケート回答の集計結果を掲載したい。以下に，アンケートの内容を紹介し，集計結果をグラフ等の図で表記する。

２４日　いかがでしたか？「えぽあ・新春コンサート」　**アンケートのお願い**

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。
今回の「えぽあ・新春コンサート」公演は、浅井学園大学での日頃の学習成果の披露だけでなく、ポピュラーやジャズも交えて、皆さんにより親しみをもって音楽に触れていただこうと“地域に根ざしたコンサート”を目指しております。まだまだ学習途中の未熟な私たちですが、皆様のご意見やご感想をお聞きし、今後の勉強を続けてまいります上で参考にさせていただきたいと思います。
アンケートへのご協力をよろしく、お願いいたします。（該当する答えに○を付けてください）

1. あなたの年代・性別は？ 浅井学園大学の学生ですか？（ はい　いいえ ）
（10歳未満／10歳代／20歳代／30歳代／40歳代／50歳代／60歳代／それ以上）
（男性　女性）

2. 居住地域はどこですか？
（江別市　札幌市　区、札幌近郊　市、それ以外の　市町村）

3. 今回の公演を何で知りましたか？
（ポスター　チラシ　コンサート　新聞　友人・知人から　会社・学校から）

4. 「新春コンサート＆Sattama」公演全体にどんな印象を持ちましたか？
（ 面白い試みだった　何も感じなかった　退屈な企画だった ）

5. コンサートはいかがでしたか？
（ 楽しかった　何も感じなかった　退屈だった ）

6. プログラムの選曲はいかがでしたか？
（ 良い　普通　悪い）

7. 今日の公演で演奏された曲で、印象に残った順に1～4までの番号をつけてください。（例：全部1番も可）
（　）ハンガリー第１番　（　）ハンガリー２番　（　）ハンガリー３番
（　）冬ソナ“はじめから～”　（　）冬ソナ“My～”　（　）戦場のメリー～
（　）エグモント　（　）ラ・カンパネラ　（　）ピアノソナタ　（　）ワルツ
（　）愛の夢

8. また、上の質問で印象に残った理由をお書き下さい。（自由記入）

9. 今後、私たちピアノゼミの大学生が、どのように地域の皆様と音楽活動を行っていくのが良いと思われますか？

ご協力ありがとうございました。

写真７　24日アンケート

アンケートの集計結果を，以下に項目ごとに図に示す。

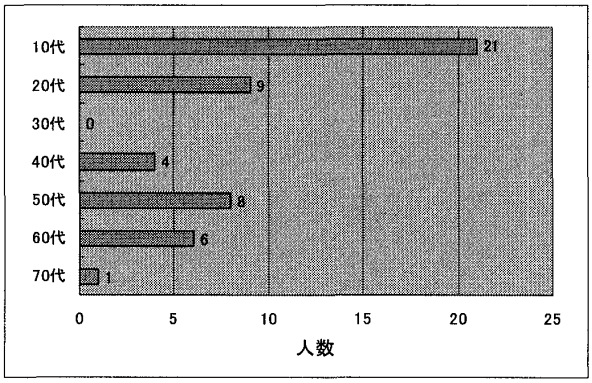

図１　年代（項目１）

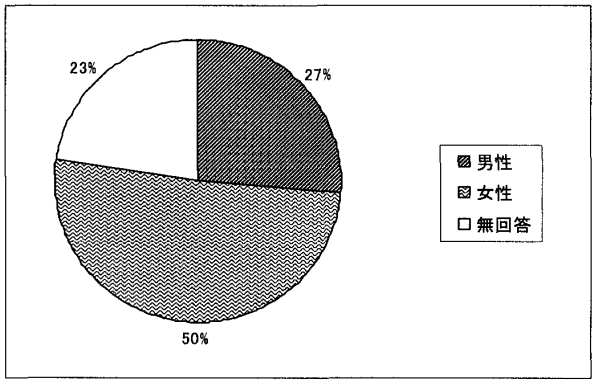

図２　性別（項目１）

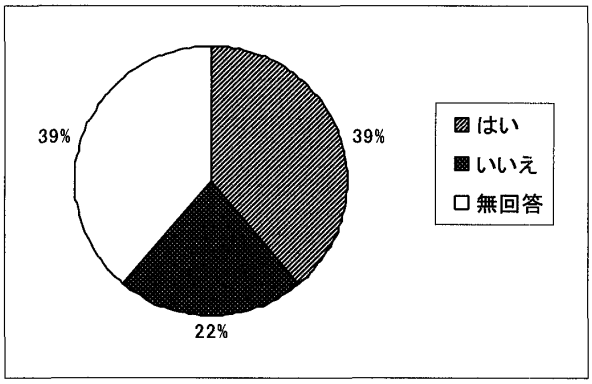

図３　北翔大学の学生ですか（項目１）

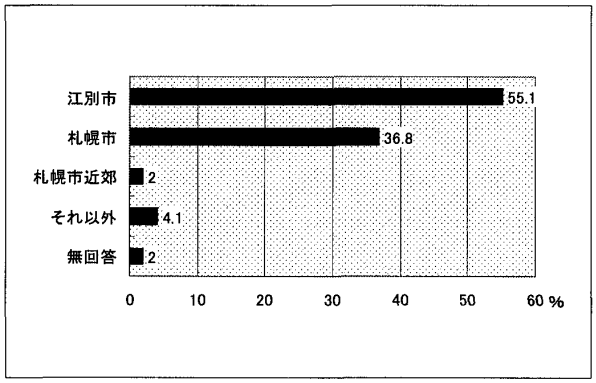

図４　居住地（項目２）

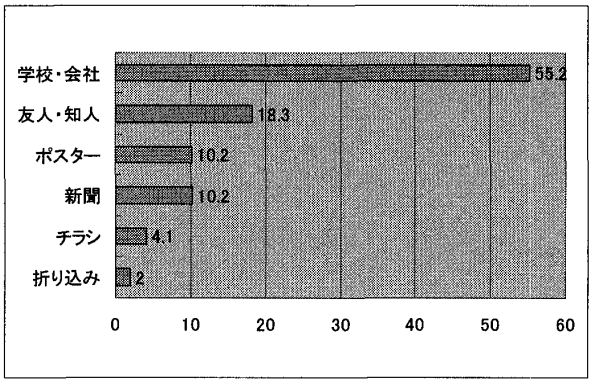

図５　周知方法（項目３）

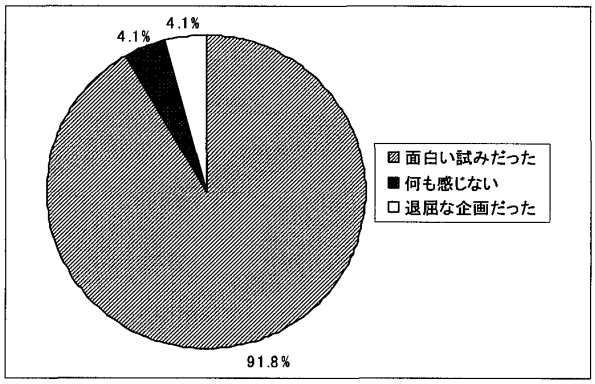

図６　公演全体の印象（項目４）

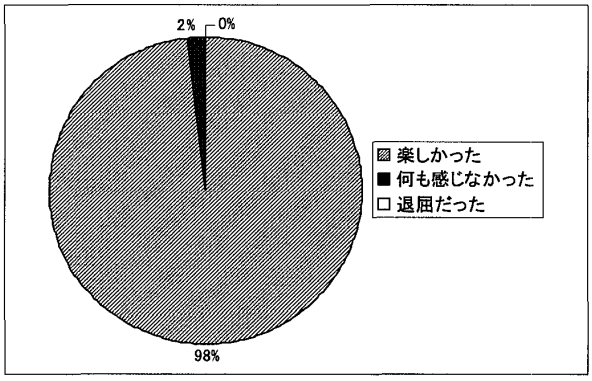

図７　音楽会の評価（項目５）

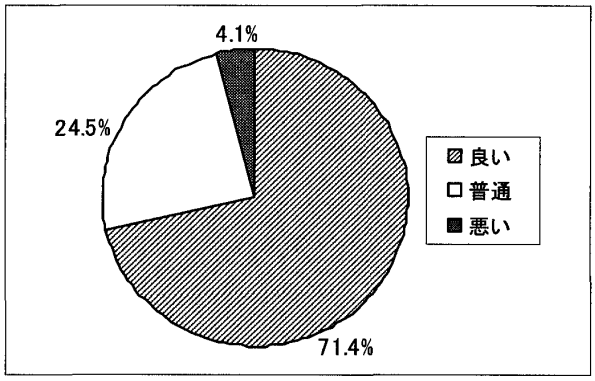

図８　選曲（項目６）

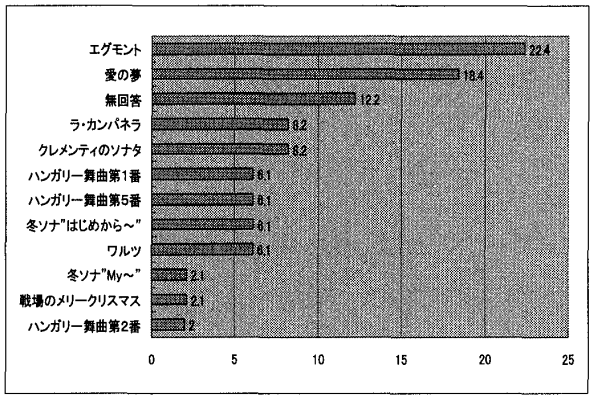

図９　曲の印象１位（項目７）

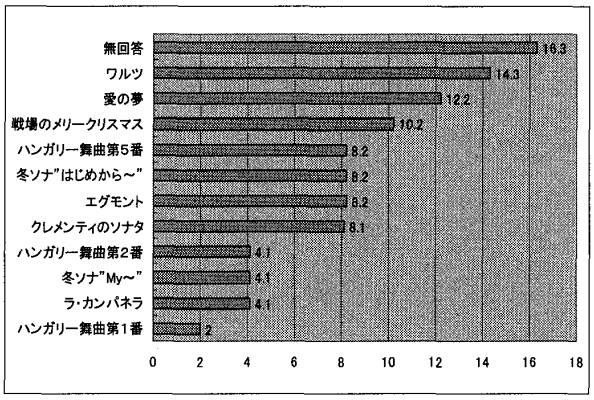

図10　曲の印象２位（項目７）

Ⅶ．事後，公演実施にあたっての考察－ピアノ・ゼミ－

１）大学から地域への音楽情報の発信

ピアノゼミの４年生８名，３年生８名，サクソフォンゼミ３年生４名の計20名の学生を，演奏発表で紹介できたことは大いに意味のあることであった。学内での発表，あるいは北方圏学術情報センター（札幌市中央区）における卒業演奏会等の発表の場は定期的に設けられているが，地元江別市での発表の機会はない。今回の公演は，芸術メディア学科設立８年目にしてようやく実現した。特に，４年生は，４年間の集大成である卒業研究の発表であるため，クラシック曲，自作（オリジナル），エレクトーン，ビデオ作品発表と内容が多彩であった。同時に，指導にあたる教員も演奏することで，教育・研究の両面からの発表が実現した。これら大学の音楽情報を発信することで，今後，住民側からさまざまな生活に根付いた音楽の活用法が提案されることを期待している。

２）音楽イヴェントによる地域活性

イヴェントとして人々が集まりやすいよう，入場無料にした。また，大麻地区は少子高齢化の進む地域であるため，コンサートの一般の鑑賞者を40代～70代に絞った。そのため，公演終了時間を通常の20：30や21：00ではなく，19：30や19：45に設定した。これは，授業での鑑賞学習に位置づけた学生の帰りの交通事情に配慮したこともある。プログラム選曲は，４年生は２月の卒業演奏会が控えているため，必然的に難易度の高いクラシック曲が中心となる。それだけでは，特にクラシックファンでもない聴衆にとってはどうしても難解で堅苦しくなるため，３年生は親しみやすいポピュラー音楽を担当することに役割を決め，韓国ブームにのったドラマ「冬のソナタ」のテーマをはじめとして誰もが知っている曲を取り入れるなど，積極的に努めた。この曲では，会場の照明による雪を降らせるなど工夫し，視覚的は効果もねらった。次回は，用意した映像を映し出す等の工夫も可能であろう。プログラム２日間のゲスト演奏を含めた全体を見渡すと，クラシック17～18曲（ジャズアレンジ，エレクトーンアレンジ含む），クラシック以外のポピュラー曲等は17～８曲（テレビドラマテーマ曲，映画音楽，ジャズ等）と，数はほぼ同数である。それらを，以下の表にまとめてみる。

表１　プログラム曲数の内訳（24日と25日の合計）

	クラシック	親しみ易いクラシック	テレビドラマ曲	映画音楽	ジャズ	ポピュラー音楽	作品発表	合計
ピアノソロ	3	3					2	8
連弾	3	1	1	1		1		7
2台ピアノ	2			1				3
2台8手	1					1		2
エレクトーン	2							2
ピアノとエレクトーン			1			1		2
その他のアンサンブル	1	1			3	5		10
合計	12	5	2	2	3	8	2	34

尚，今回のプログラムの演奏時間は，全演奏時間（24日と25日の合計）240分間のうち100分間が教員とゲスト演奏家によるステージで，140分間が学生の演奏である。

２日間公演の最後に，アンコール曲として日本古謡「さくら」をチェロ独奏で演奏していただき，日本人としての新春のイメージを心に満たして帰途についてもらうことをねらった。

３）コンサート形式による教育的効果

３年生と４年生が同じ楽屋で支度をし，同じ舞台袖で緊張しながら待機する。そこでは教室でレッスンを受けたり学習したりする場では得られない人間関係が生まれるはずである。先輩や後輩の関係だけでなく，音楽企業や音楽ホールの学外関係者と接する機会も多く，仕事の現場を覗くことにもなるだろう。互いの役割を知り，互いの仕事ぶりを尊敬・感謝しつつ要求もはっきり言えるようにし，コミュニケーション能力を磨く場でもある。実際，当日も病人が出て救急車の出動を依頼するなどハプニング続きであった。幅広い年齢層の聴衆の前に出て，自分の演奏を聴いてもらうことこそ上達の秘訣でもある。音楽は，個人レッスンを受けたり，一人で鑑賞するだけではなく，これら人間的な交流を経験する中に大きな学習効果がある。自分がどのような音楽を発信したいか，また，周りの人々がどんな音楽を求めているのかを受信しながら，非言語コミュニケーションとしての音楽の力を磨き，周りの人々の音楽教育・音楽学習をコーディネイトできる支援者・指導者に育ってほしいと願い今回の企画を実施した。その成果は，何年後に出るかはわからないが，将来，大きく芽が出て，大きく育ち，頼もしい人材が養成されるであろうと確信している。

Ⅷ．授業における感想文からの抜粋

48名の回答者の中からアンケート項目９「今後，私たちピアノゼミ生がどのように地域住民と音楽活動を展開していくのが良いと思いますか？」には25名から回答が得られた。その中で19名が「このようなコンサートの機会を増やす」という内容であった。以下に一部を紹介したい。

・地方都市でこんな立派なホールがあって素敵な日でした。地域の音楽家がたびたび披露してもらえたらとても嬉しく有難いです。高齢者にとってキタラまで行かなくてすむのは有

P難いです。これからも楽しみにしています。(60歳代)

- 輝きがあって，演奏をきいた人々に感動を与えてくれるので，今回のような活動はとてもすばらしいと思います。(20歳代，女性)
- 大いに卒業記念でこうした催し物を歓迎いたします。無料が良いです。(60歳代以上)
- 今回のように無料の演奏会がいいと思われます。私たち学生にとっては，ものすごく良い機会だと思います。(女性)
- 今回のようにあってほしいと思います。ただ，PRが事前に行きわたっていないと感じています。(50歳代，男性)

他にも，項目9に関しては，以下のような意見があった。

- このような音楽会は身内の集まり（学内，家族内）が多いから何とも言えません。大きなコンサートに出れる様努力していけばいいのでは？浅井学園からそんな大舞台に出てTVに出ることがあれば嬉しいです。頑張ってください。(20歳代)
- どんどん人に聴いてもらうべき！！そういう環境を広げると叶うコトだと思います。夢を叶えてください。ありがとうございました。(20歳代，女性)
- 演奏に対して細かな練習を積み，もっと自信のある演奏を地域の人にきかせてほしい。施設や小さな会場で回数を重ねて，技術を高めてほしい。音楽の“たのしさ”を伝えてほしい（ゲスト演奏の方々のように）(40歳代)
- 私たちの周りにもピアノを弾いたり，弾こうと思っている人たちが沢山います。そのような人たちにこういう場所を提供してもらえたらと思います。(60歳代，男性)
- 聞いても見ても楽しめました。(10歳代，男性)
- ロビーのサックス演奏がとてもよかった。初めて聴きました。(60歳代)
- 素敵でした。とてもキレイでした。心が浄化されました。エレクトーン・ステージアには心が躍らされました。とても良い日でした。(20歳代，女性)
- ステージアという楽器，はじめて聴きました。すばらしかった。あんな小さな楽器からオーケストラが出来るなんて。明日もまた来ます。(60歳代以上)

以上で報告を終えるが，最後に今回の「えぽあ新春コンサート＆SATTAMA」を協賛企業として多方面から支え，成功へ導いて頂いたエルム楽器，河合楽器製作所北海道支社，キクヤ楽器，砂越ピアノサービス，ヤマハミュージック北海道札幌店（五十音順）の方々にこの場をかりて感謝を申し上げたい。

本研究は，北方圏学術情報センター・平成19年度学術フロンティア継続研究に基づく芸術プロジェクト（音楽グループ）研究費の助成によるものである。